

経営比較分析表（平成30年度決算）

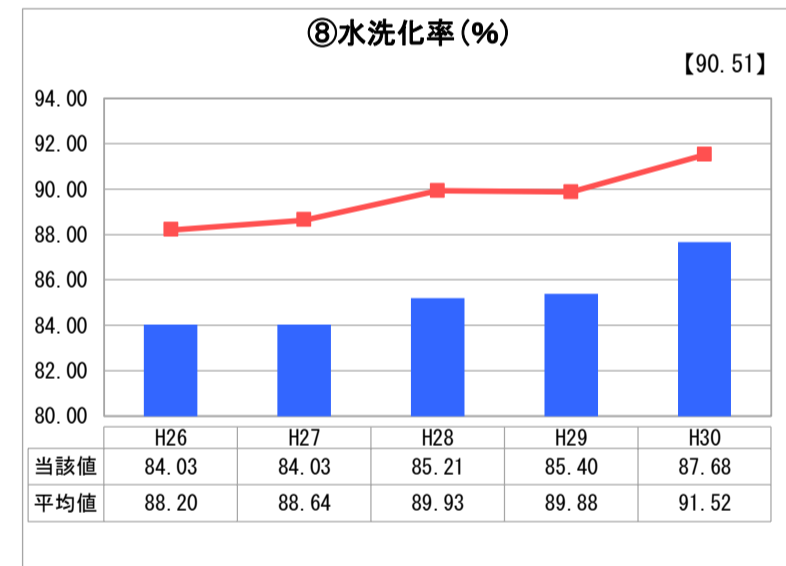
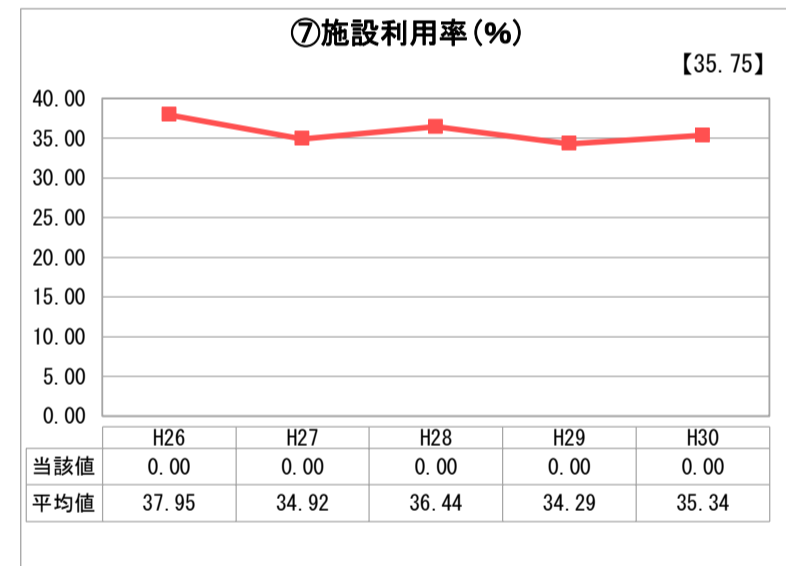
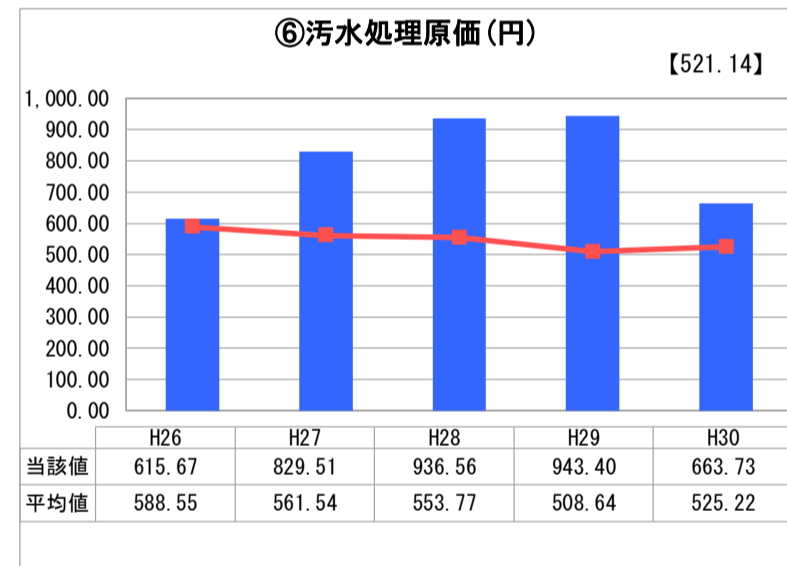
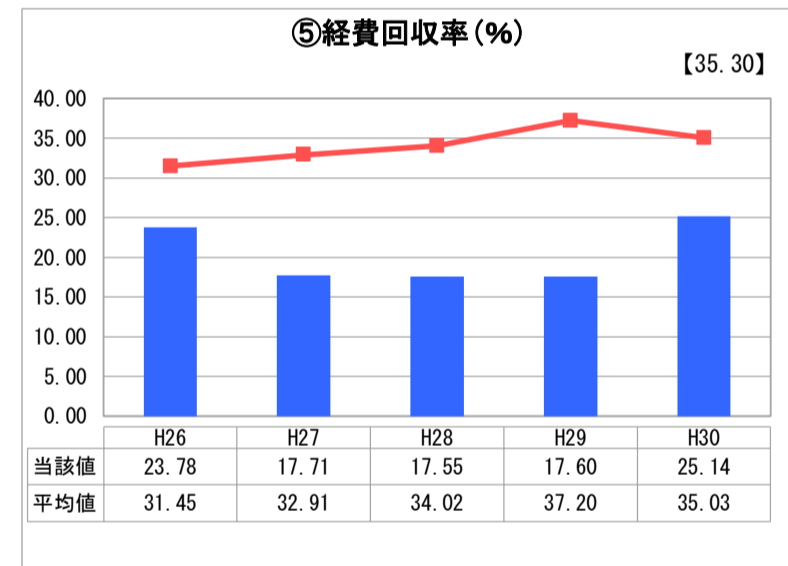
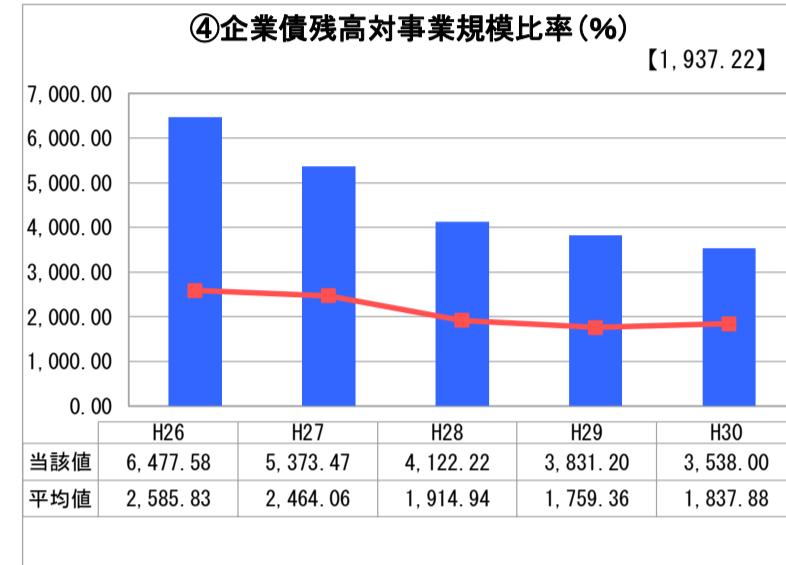
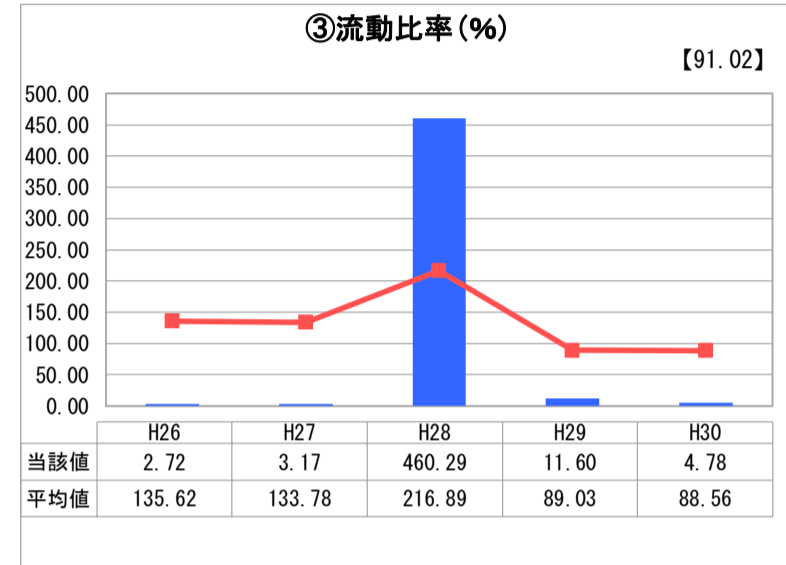
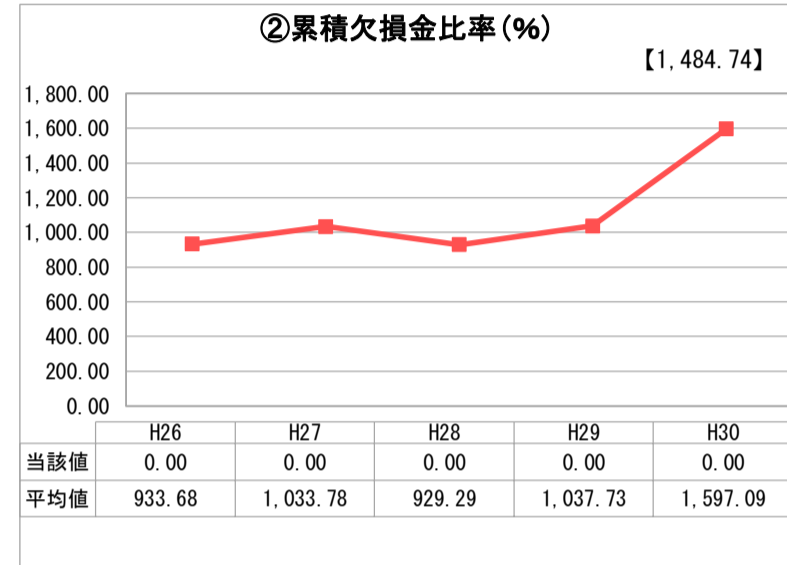
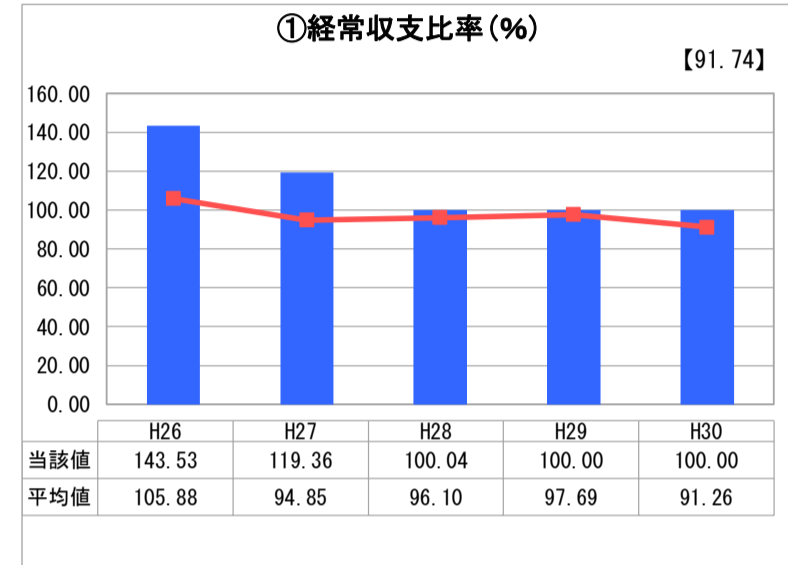
兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	小規模集合排水処理	I2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	33.55	0.17	100.00	3,348

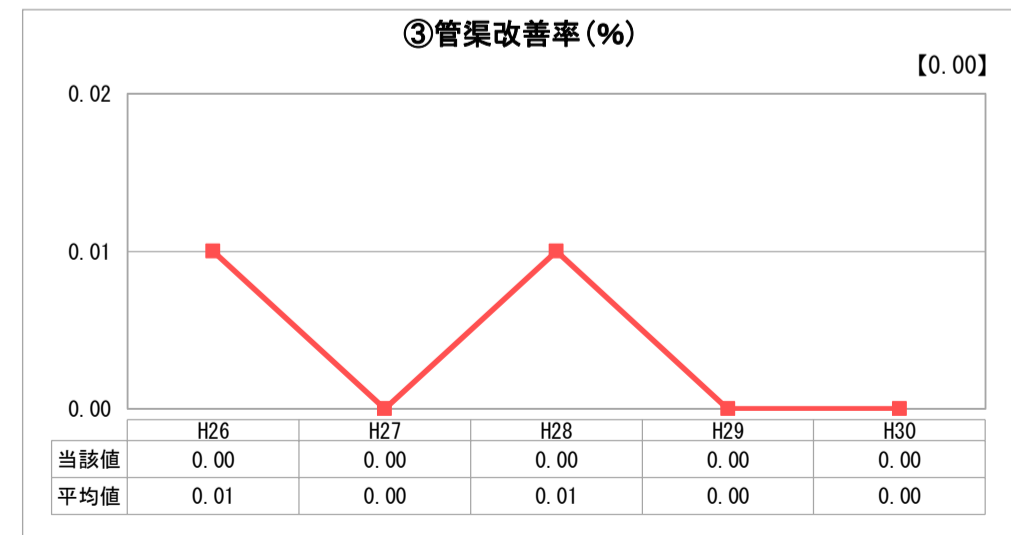
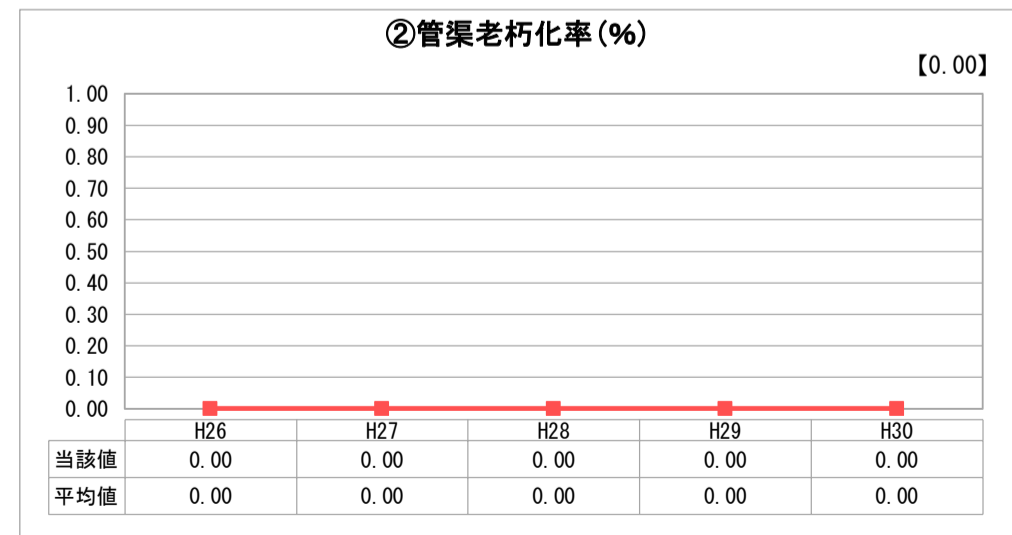
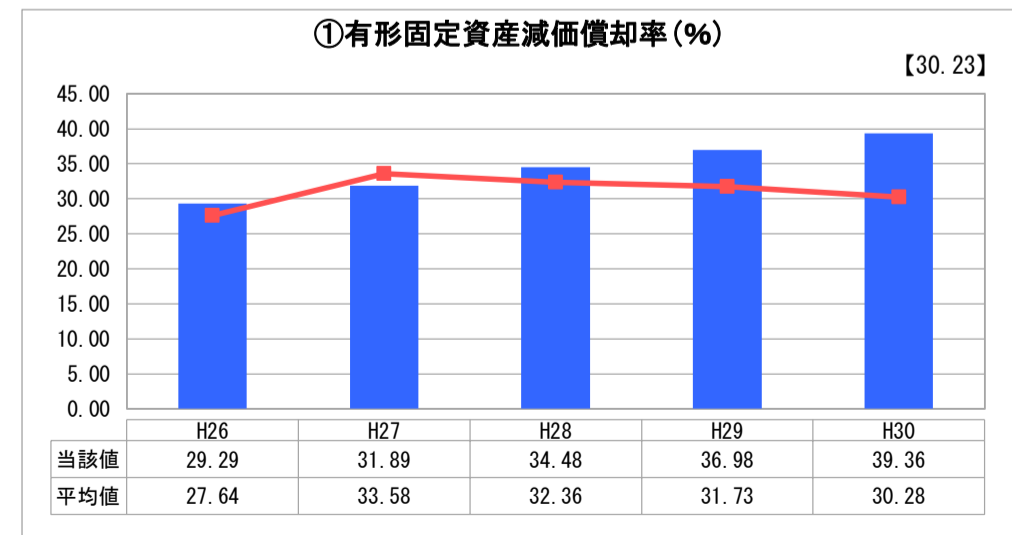
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
82,037	697.55	117.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
138	0.11	1,254.55

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は健全な数値を維持できている。
 ⑤ 経費回収率が低いのは、収益が一般会計からの繰入金に依存していること、汚水処理費が高いことが理由である。汚水処理費については、⑥ 汚水処理原価についても同じことが言える。
 ④ 企業債残高対事業規模比率は依然として高いが、使用料収入が増加したことで、改善が見られ、着実に企業債残高は減少している。

2. 老朽化の状況について

類似団体よりも償却率が高く、施設の老朽化が着実に進んでいる。
 今後は、将来の運営状況を考慮しつつ、合理的な投資をしていかなければならない。

全体総括

使用料収入だけでは経費を賄うことができておらず、依然として一般会計からの繰入金に依存しており、独立採算による経営ができていない。
 また、汚水処理に係る費用が高いまま推移しているため、引き続き営業費用の削減に取り組む必要がある。加えて水洗化の促進も必要である。
 施設の長寿命化を合理的、計画的に進め、効率的な業務を行うことが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。